



諸機械、電氣機器  
 鐵道用各種材料  
 鋼鐵類各種地金材料  
 建築及水道其他工業用諸材料  
 機械並電氣各種工事ノ設計、監督、工事ノ引受

臺北市本町四丁目一六番地

# 株式 共益 會社

電話 長三、二四一番  
 三、一八六番  
 四、三九五番  
 直用二、六五一番

東京事務所 東京市丸ノ内九ビル六階六七九號  
 大阪出張所 大阪市西區江戸堀北通三丁目四二番地  
 高雄出張所 高雄市新濱町一丁目五五番地  
 臺中出張所 臺中市錦町一丁目一九番地  
 南支出張所 廣州市惠愛中路第一九八號

目次 (五月十五日號)

- 海軍記念日を迎ふるに際して…………… 浦井茂吉…………… 二
- デマ防止座談會…………… 七
- デマの状況とその發生原因…………… 七
- デマ發生の心理學的原因…………… 九
- デマは何處から起るか…………… 一〇
- アメリカを恐れるな…………… 一四
- デマの種々相…………… 一四
- デマ豫防策と銃後の治安…………… 一六
- 全島に啓蒙運動を起せ…………… 一九
- 日本の實力を信頼せよ…………… 二〇
- 女のお喋りはデマの大もと…………… 三三
- デマ粉碎の具體案…………… 三五
- 武器なき敵…………… 警務局…………… 三六
- 諜報と防諜…………… 三六
- 宣傳と謀略…………… 三六
- 皇軍福州入城…………… 三六
- 臺灣の總人口…………… 三六



軍司令官師團長會議閉かる  
 本年度軍司令官、師團長會議は、陸軍省に於て開催され、三日間に亘り續行された。(四月十一日)

日ソ中立條約締結さる

獨逸樞軸訪問の松岡外相は歸途モスコに立寄り、クレムリン宮にスターリン書記長、モロトフ人民委員會議々長と數次に亘り、日ソ國交の全面的調整問題を協議、モロトフ外相との間に遂に日ソ中立條約を締結した。因に條約の有効期間は一期五箇年である。(四月十三日)

防空展覽會閉かる

臺北市では、防空思想の普及並に防空に關する知識を市民一般に徹底させる目的を以て、向ふ一週間、市公會堂に於て開催した。(四月十五日)

本島少年保護日

本島に内地と呼應して十七日を少年保護日と定めてから今年で第四回目の記念日を迎へた。この意義深き日を有意義たらしめる可く、少年保護思想普及徹底を期する各種の催を實施した(四月十七日)

ユーゴ政府無條件降伏

バルカン戰線に於て勇悍に戦闘したユーゴ軍は、僅か十數個師の獨軍機械化部隊に依つて撃破され、開戦後十日餘にして獨軍門に降伏した(四月十七日)

本島の大政翼賛體制成立す

六百萬本島民待望の皇民奉公會は府正廳に於て開かれた準備委員會に於て、滿場一致實業要項並に運動規約を原案通り可決、茲にその力強き發見を見るに至つた。(四月十八日)

第三十四回勳功行賞の御沙汰

畏き過りでは支那事變第三十四回(海軍第十八回)戦死戦傷、傷病死者勳功行賞の御沙汰あらせられた。今回の恩典に浴した者は二百三十三名である。(四月十九日)

陸海軍部隊浙江省登陸上陸

支那派遣軍報道部、支那方面艦隊報道部發表し我が陸海軍の精銳部隊は早朝極めて緊密なる協同の下に浙江省沿岸の要衝鎮海、石浦、海門、温州附近に奇襲上陸を敢行し、引續き豫定の作戰を進めつゝあり、本作戦には陸海軍共に有力なる航空部隊これに参加活躍中(四月十九日)

# 海軍記念日を迎ふるに際して

臺北駐在軍武官 海軍少將 酒 井 茂 吉

近く事變下に四度光輝ある海軍記念日を迎ふるに際し、三十六年前日本海々戦の大捷を回想し、驕つて現下皇國未曾有の重大危局に想到する時、我々は無限の感懐を禁じ得ないと同時に、愈感奮興起して來るべき困難に備へなければならぬことを痛感せしめられる次第である。顧みれば明治三十八年初頭、攻圍半渡、海陸の協同功を奏して旅順を屠り、敵の東洋艦隊を撃滅するや、我が聯合艦隊は逐次内地に歸還して、船體兵器の修理改善、人員の交代充實を圖り、次で朝鮮鎮海灣附近に集合して白熱的訓練を開始した。

機熟し腕揚り、一年有半實戦の體驗の上に、正に「百發百中の砲一門は百發一中の砲百門に匹敵す」とふ精練なる實力を養ひ得、茲に遠來の「バルチック」艦隊を迎へた。明治三十八年五月二十七日早朝「敵艦見ゆとの警報に接し聯合艦隊は直に出動之を撃滅せんとす本日天氣晴朗なれども波高し」との電報を大本營に發しつゝ、我が聯合艦隊が鎮海灣を出動せる時は既に戦はずして敵を屈するの意氣躍如として躍るものがあり、五月の青空に翻轉として驕りし我が軍艦旗の閃きと、澎湃たる怒濤を越えて決戦場に猛進せる艦隊の威容を想見すれば、定に血湧き肉躍るを覺えざるを得ない。「皇國の興廢此一戦にあり各員一層奮勵努力せよ」千古不滅の名信號は三笠の檣頭に懸つた。

感激の涙で之を仰ぎ見た將兵一萬五千、誰か生還を歸せん。必死の奮戦は先づ我が主力部隊の敵前大回頭に依つて開始せられ茲に前古未曾有の大戦は開始せられたのである。

傑たる御稜威の下、卓越せる統帥の戦術の妙用と、將兵の奮闘とは忽ち其の効を顯はして、戦開開始後三十分にして、已に戦勝の端緒を獲得し、爾來夜を日に次ぐ二日の激戦に遂に敵の大艦隊を撃滅して、曠古未曾有の大戦果を收め畏くも「朕ハ汝等ノ忠烈ニ依リ祖宗ノ神靈ニ對フルヲ得ルヲ憚ラ」との前例なき優詔を拜するに至つた。

本海戦の大捷は其の直前三月十日奉天に於ける陸の大決戦の輝く戦果を愈決定的ならしめ、遂に露國をして戦意を放棄せしめ、茲に日露戦争をして終局に導く一大原因とはなつたのである。

即ちこの千古未曾有の一大撃滅戦は海戦の大蓋が切つて落されてから、僅に三十分にして勝敗の数が定まつたのであるが、この三十分間に擧げ得たる戦果は、既に十年間の戦備の賜物にして、當年東郷司令長官の幕僚た

りし故秋山將軍は、後年に至り當時の戦況を説明した際「海軍の決勝は僅に三十分間に獲得さるゝも、此に至らしむるには十年の戦備を要するものにて、即ちとりも直さず連綿十年の戦争と謂ふべきなり。此の十年の經營の大戦争に於て、皇軍が海に陸に連戦連勝し得たること皆是れ、明治天皇陛下御威徳の致す所なり」と結言してゐるのである。

彼の三國干渉以來、全日本國民が老幼男女を擧げて烈々たる義憤に燃えつゝ、克く臥薪嘗膽十年の忍苦に耐へ、比類なき舉國一致の精神を發揮して偉大なる業績を成就したことは、戦勝の因を齎したものであつて、永へに後代國民の龜鑑たるべきものである。當時國を擧げて公に奉じたる國民的努力の結晶は枚舉に遑がないが、其の一例を示せば、當時の我が國の財政状態に於て戦前短年月の間に克く六六艦隊、即ち六戰艦六裝用巡洋艦を基幹とする各種艦艇を整備充實し得たことは、明かに海戦の勝利を我に導いた要因であつた。

即ち、日本海々戦に於て、敵の戰艦八隻、裝甲巡洋艦一隻、裝甲海防艦三隻に對して、我も亦戰艦四隻、裝甲

巡洋艦八隻（内日進、春日は開戦後外國より購入）計十二隻を主力として對抗し得たことそのが、實に陛下の御威徳に基ける皇軍天佑の最大なるものであつた。尙我々は「富士」、「八島」の我が海軍最初の二戦艦が長くも明治天皇の御恩名に依つて明治二十六年以降六年間毎年三十萬圓宛内廷の費を省いてこれを御下賜あらせられ、文武百僚亦同期間その俸給十分の一を入れて、製艦費の補足をなさしめ給ふた憐憫たる經營に依る所産であることを想起して、今更に恐懼感激に堪へない次第である。

### 皇軍福州を略攻

閩江南方海岸に奇襲敵前上陸を敢行した精銳なるわが部隊は、抵抗する敵を粉砕し、一路福州に向つて軍を進め、省野部隊の先鋒は四月二十日午後十一時三十分、福州東門より突入して一番乗りをなした。續いて翌二十一日は高木、宮地、今井、柳の諸部隊も續々と入城し、同日午後全市を完全に占領した。さうして翌二十二日午後二時からは、晴れの入城式を堂々と舉行した。

序の建設は更に新たな段階に突進み、更に佛印、泰をも大東亞共榮圈内に加へて輝かしき新東亞の黎明を望むに至つたとはいへ、事變處理の前途は尙遠く而も帝國を繞る國際情勢は樂觀を許さざるのみか、太平洋の波立騒がんとする氣配さへ感知せらるゝ現狀である。加ふるに歐洲も現に戦亂の渦中にあり、その戦禍の波及するところ速に端倪すべからざるものがあるのである。

この秋に當り、茲に海軍記念日を迎へて、我々は今日、三十六年前、皇國の興廢を一戦に賭した日本海々戦當時にもまして重大危局に直面してゐることを痛感せしめられるのであつて、東亞新秩序建設の大業完遂の爲には、陸に強大なる陸軍力、海に優勢なる海軍力を不可缺とし而も常に西太平洋の制海權を確保することを絶對的、基礎的、先行的條件とすることを忘れては斷じてならないのである。

而して日露戦役當時われ等の祖先々輩に依つて發揮されたるが如き舉國一致堅忍持久を切要とすること今日に過ぐるものなきに想到し、愈聖旨を奉體して一層奮勵努力を誓ふ次第である。

總督府勤行報國青年隊の様である。十六年度に於ける訓練に就いては、文教局で周到なる實施調査を行つた結果、左記三箇所に於て實施する事に内定した。

**花蓮港訓練所**  
花蓮港蕃地瀨見附近に於ける能高越道路開鑿に奉仕する。訓練開始は六月中旬、訓練計畫は臺北と同様である。

**臺北訓練所**  
臺北市大直に於て引續き臺灣神社、臺灣護國神社の御造營工事に奉仕する。訓練開始は四月下旬の豫定で、一回三百人、期間は三箇月、年三回實施する。

**臺中訓練所**  
能高郡蕃地富士に於て能高越道路新設工事に奉仕する。訓練開始は六月下旬、訓練計畫は臺北と同様である。

## 十六年度に於ける勤行報國青年隊の訓練

聖なる奉仕や道路開設

尚十六年度で新に開始される臺中、花蓮港兩訓練所の作業現場の狀況作業豫定は、大要左の如くである。

**臺中訓練所**  
位置 臺中州能高郡富士 東方六百米

**花蓮港訓練所**  
位置 花蓮郡瀨見、小屋

掛、豫定地は木瓜溪の上流兩溪谷の合流地點瀨見駐在所裏、前方には長さ百七米の鐵線橋がある  
交通 銅門より九軒の地點、瀨見鐵線橋を距る七百米迄はアルミ會社工事用既設道路がある  
衛生狀況 マラリヤ、恙蟲なく年中蚊帳不要  
作業豫定 延長一軒餘、岩交土切六、八〇〇立方、軟岩切三、〇〇〇立方、硬岩切一、三〇〇立方、盛土五、六〇〇立方、尙本作業は道路港灣課の技術陣も參加の豫定

# デマ防止座談会

## 流言蜚語は信念の弱さに生ず。 惑ふこと勿れ、動ずること勿れ

——(戦陣調より)——

細井 本日は皆様夫々御忙がしい所を、斯くお集り願ひましたのは、御承知の通り、流言蜚語と云ふものが、之は或はデマと多少違ひますかどうか問題になりませうが、所謂デマとか、蜚語とか、非常に多い様な情勢が先般見えたのであります。臺灣は、之は内地に比べましてどうも、かう云ふ物が多い様な気がしまし、又その性質が内地と違ふ所もありまして、其の弊害も多い様であります。此處にも我々として、どうしてあゝ云ふ様な奇想天外な、流言蜚語が飛んだのか、或はどう云ふ

譯で、かう云ふ様な夢想だにもしない流言蜚語なり、デマなりが飛ぶのであらうかと云ふ事が考へさせられるのであります。此流言蜚語と云ふものは天下泰平の時には、大體に無いのであります。今の様な非常時局として、何か世の中に一つの波紋

が起りますと、流言蜚語と云ふ物が、それに連れて、起るのであります。臺灣も國際情勢、非常時局が進展するにつれて、之を放つて置けば、流言蜚語はますます多くなる恐れが十分にあると思はれます。もつとも無ければそれに越した事はあ

りませんが、一應時局の變轉に連れまして流言蜚語は多くなると云ふ事は豫想して、之に對する對策を講じて置けば所謂萬全の策を講じた事になると思ふのであります。獨り臺灣に限らず、流言蜚語と申しますものは、非常に困まつた物であります。世界各國共これに困つてゐるのであります。西洋の或詩人は流言蜚語を妖婦と稱したといふことであります。色々と流言蜚語が元になつて、困まつた事件が起つた事がありますが、臺灣の過去に於きまして

が、之が起らない様に努力すべきものだと、其の義務を感じて居るのであります。さう言ふ趣旨で此の集りを願つたのであります。それでは、話の進行と致しまして、先づ此の流言蜚語、或はデマの發生原因、或は轉化の状態と言ひますか、さう云ふ物に就きまして、一つ御話を願ひたいと思ふのであります。先づ、全島的に見たデマの状況と言ひますか、状態と言ひますか、それを一つ保安課長さんにお願ひ出来ませんか。

い時に、起るのであります。最近に至つて、急に色々な流言蜚語が飛び出した理由は、大體この三つの理由ではないかと思ひます。それは一つはたまく米の供出運動があつた事、もう一つは時局の關係

も、例の土匪事件、之等も流言蜚語が元になつて居る様に聞いて居るのであります。今、かう云ふ時局でありまして、我々銃後にある者は其の職業、其の階級の如何を問はず、又地域の如何を問はず、之に對する對策と言ひますと大袈裟になります

### デマの状況とその發生原因

下村 私は今度の流言蜚語の理由は大體三つではないかと思つて居ります。……結局流言蜚語と云ふものは人心不安とか、多少氣持が落ち着かな

- 昭和十六年三月二十二日 於 協和會館
- |             |            |
|-------------|------------|
| 出 席 者 (五十名) | 元 郡 守 猪口 誠 |
| 臺北高校教授      | 今崎 秀一      |
| 臺灣軍報道部      | 卜部 中佐      |
| 保 正 金元 金水   |            |
| 大裕茶行車役      | 龜山 炎亭      |
| 臺北市會議員(辯護士) | 桂式 毅       |
| 臺北市會議員(辯護士) | 黃炎 生       |
| 臺北市會議員(醫博)  | 施 江 南      |
| 府保安課長       | 下村 鐵男      |
| 文藝家         | 張 文 環      |
| 府文書課長       | 西村 高兄      |
| 臺北放送局放送部長   | 林 二 郎      |
| 府視察官        | 林 猪太郎      |
| 府保安課事務官     | 松岡 晴二      |
| 府警務課事務官     | 箕山 清       |
| 青年團長        | 賴 海 清      |
| 司 會         | 細井情報部副部長   |

で地方的に、防空壕の設置、その他が實施されたと言ふ事、それから第三番目には、國際情勢の變轉が必ずしも、樂觀を許さない情勢にありまして、まあ世間でよく言ふ「太平洋の波が怒かでない」と言ふ、それについて最近の佛印と泰國との國境問題の紛争、日本が所謂居中調停に乗り出して、その調停が途中で一寸停頓の状況にあつた、あの時分から急速に起り出した氣がします。結局調停が停頓して、それを機會に戦争が起るのではないかと云ふ風な聯想がありまして、さう云ふ豫想が行はれた。さう云ふ風な三つの理由で今度の流言蜚語が起つたとかう云ふ風に考へて居ります。で、一番最初に私共が聞きましたのは、例の牛が物を言つたといふあれであります、それにも二種類ありまして、突然牛が物を言つ

て本年中に本島人は三分の一を除いて全滅するとかう言つたので、飼主が怒つて殺したと云ふのと、も一つはまだ其の時間にならんに牛が糞食を喰ひに歸らうと言ふので、子供が牛に何故かと聞いた所、飯は喰へる中に喰つて置かんとその中に喰へなくなる」ととかう言つたと言ふ二種類であります。その次が継子苛めの繼母のあれで、松北、新竹……臺中에서도起つたのではないですか。

松岡 臺中でもありました。  
下村 それからその外に鹽の買溜めの原因になつた流言蜚語は、之は色々ありまして、鹽田を防備のために潰されるから鹽が無くなるよと云ふのと、もう少し極端なのは鹽田は爆撃を受けて、鹽が出なくなるから、今の中に買つて置くと云ふ風に、種類が分れて居りますが、さう云ふ流言

蜚語は、その爲に鹽の買溜めをやる様な現象が起る様になり、良くない効果がありました。それから其の他に極く之は一部ですが、ある飛行場が爆撃されてえらい事になつたと言ふ流言が一部にありました。部分的の現象は色々ありますけれどもね、一寸今想ひ出す大きなのは、つまり大きいと言ふのは、範圍が廣いと云ふ意味ですが、前の三つは範圍が廣いのであります、外にも澤山あるかも知れませんが……大體そんな物であります、それで、それを無くする方法は又後で出るので、今は原因だけですか……。

細井 何だつたら……今纏めて言つて下さつても宜ろしいと思ひます。  
下村 原因としては、私は此三つの事が原因で、結局は日米戦争が起るのではないかと云ふ様な事が根本にな

つて、さうしてたま〜佛印と泰國の國境問題が、その進展によつては日米戦争が展開されるのではないかと云ふ様な心配を持つた事、又たま〜米の供出があつたので、あの米は軍需品として準備するのではないかと、或はさう云ふ風にとつた爲ではないかと思ひます。それとまだありました。防空壕の問題です……。防空壕をあゝやつて一生懸命造つて居るが、何れ戦争のある時に、兵隊が、あそこにかくれて守るのだと言ふ流言がありました。色々他にもあるでせうがさう云ふ風に戦争に關聯した物として、今度の流言蜚語が起つたのでは無いかと思ひます。その本當の起つた元は、それは一寸分りませぬ。關東震災の時の流言蜚語でも、提燈が消えたと言ふ事が變化して、朝鮮人が來たと云ふ様な

事になつてゐますからね。それを傳播するために賣卜者が自分の商賣に使つたと云ふ事實はありますけれども、他愛もない事でも、又田舎の方に行きますと、他に話題も無いし、案外さう云ふ事が話題となりますね。それでは、戦争が始まると云ふ時にはよく色々な流言が飛ぶのではないかと私は思つて居りますが……。

### デマの發生の心理學的原因

今略 流言蜚語の起る心理學的原因は、一時に人間に大きな力が加はりますと智能の水準——理智的の水準がづつと下りまして、非常に感情的になり、大事件などが降つてかゝると非常に昂奮する場合と自棄になる場合とが考へられます。同じ考へ方

を社會團體に就いて考へて見ますと、かう云ふ非常時とか、危機とか云つて、社會に大きな力が加はりますと、矢張り社會も理智的の水準が相當下つて来て正しい判断が出来なくなりません。その場合に最初に一人々々の人間、従つて社會全體が考へる事は吾が身の安全、身の保全と云ふ事ではないかと思ひます。自分の身を安全にしよう、危害に就いて、危険と云ふものに就いて、成可く早くそれを知らうと云ふ事でありませぬ。危険と云ふものは自分の身に、つゝ、けて考へて居るのではないかと思ひます。相當な智識人でも、危険を我が身に、つゝ、けて考へて居ります。理智的の水準が非常に社會的にも、個人的にも下がつて居る場合には、感情的に支配されて自己が恐ろしい事、危害に對して非常に鋭敏にな

るのではないかと思ひます。その状態を現した言葉に「疑心暗鬼」：疑心の心、暗い鬼：暗鬼と言ふのは、ありもしないのに危険である／＼とさう云ふ警戒をする。疑心暗鬼と云ふ言葉は非常に良く言ひ表はして居りますね。さう云ふのを造り出すのは各人の疑心の心、警戒心では無いかと思ひます。個人でも、非常に大きな力が加はりますとやけになつたり、正しい判断をやらない。昂奮してしまつてやらない。それが恐らく群衆と言ふか、民衆に起つて来ますと最初考へますのは身の安全であります。自分を安全にして呉れると云ふものにはどうも無いが、危険に對して疑心を持ち、それがデマ發生の心理學的原因では無いかと私は考へて居りますが、私がデマ發生に就きまして一應考へて居ります事

は、さう云ふ様な事でありませぬ。細井 此デマと言ふのと、流言蜚語と云ふのは何か區別がありますかね。

今崎 現在では一緒ですね。

細井 實は蜚語と云ふのはどう云ふ意味かと思つて、いつか蜚語の蜚の字を辭書で引いて見ましたら、油蟲とか蟻とか書いてありましたね。

下村 悪臭を放つて飛び廻る油蟲ですね。蜚語と云ふのは身輕に飛び廻つて傳播すると云ふ意味があると思ひますかね。

細井 デマと云ふのはデマゴギーから變つたのですね。

今崎 さうですね。

細井 一緒に考へる方が自然ではないかと思ひますが……蜚の字には飛ぶとか、飛ばすとか云ふ意味がありま

今崎 一緒に考へる方が自然ではないかと思ひますが……蜚の字には飛ぶとか、飛ばすとか云ふ意味がありま

今崎 一緒に考へる方が自然ではないかと思ひますが……蜚の字には飛ぶとか、飛ばすとか云ふ意味がありま

して、飛んで行く話と云ふ意味なんではせうね。

デマはどこ

から起るか

龜山 大體原因になる事が盡きて居るやうですが、蛇足を加へますと、先程下村さんからの御話にありました様に、米の供出と、防空壕の施設と云ふのは有力な原因になつて居りまして、此二つの事が間接、直接に色々影響を及ぼして居りますが、むしろ第三の國際情勢の方が一番大きな原因だと思ひます。之は先程御話のありました様に、所謂極東危機説と、泰佛印調停の事に結びつけて云ふ事と、もう一つは我々が話を聞いて、よく考へて見ますと、米國のあの膨大な豫算が新聞に出る。何百億とか——之は今の英國に對する武器

貸與の事等で、非常に大きくこちらに心理的影響を及ぼして居るのではないかと思ひます。特に無智な者は、米國が非常に金持ちであると云ふ事が先入主となつて、豫算がどれだけ殖えたとか、南洋作戦をやるとか、或はシンガポールと共同作戦をやるとか、さう云ふ記事が新聞紙上に賑はして居る事が非常に一般の人々、特に無智な階級に心理的影響を及ぼして居ると思ひます。要するに英國や米國の力を過大に評價して居る處から、原因があるのではないかと思ひます。それは何處から來て居るかと思ひますと、教育を受けて居ないと云ふ事が主な原因でありませうが、もう一つは臺灣に於ける社會施設が非常に缺けて居るのでは無いかと思ひます。此龍大龍

龍公學校で續けて二日間講演をしましたが、大龍廟の人口は約八千人餘ですが、此の中新聞が僅かに二十部乃至三十部しか入つて居らない、ラヂオの如きも新聞と略々同數であります。結局あの邊の人々はニュースと云ふものをどうして耳に入れるかと云へば、人から色々聞くより外はないのであります。デマを飛ばす人は、ラヂオを聞かない、新聞を見て居ない人達から聞いて居ります。假りに牛が話した言ふ事は最初は幾ら馬鹿な人達でも、それは信じないが、所謂新聞とか、ラヂオの無いために結局Aから聞いた話を單純にそのまゝ言ふ事は面白くないから、多少眞實と違つた事をBに話す、BはCにそれに又枝葉をつけて言ふと言つた様にデマが飛ぶのであります。それは何處から來るかと言ふと、僕

は理髮屋とか、或は婦人の井戸端會話とか、主として婦人を通じて行くものと、所謂遊んで居る人達、大龍廟にはさう云ふルンペンが非常に多いが、それ等が理髮屋とか、玉突屋に來て居りますが、暇なものだから、さうした所をうろ／＼して居りまして、一寸した事を聞いてそれを面白く聞かす爲にデマが起るのであります。それから先程お話もあつた様に賣卜者、即ち卜から色々の影響が起ると思ひます。夜、最近大稻埕の方をふらつく方が若し居られましたら、卜の如何に殖えて居りますか、に氣の付かれることと思ひます。そして相當の人達がトをやつて貰つて居ります。昔はさう云ふ事は見當らなかつた。まあ洗足の人達が立つて居る位でありましたが、今は相當の着物を着た男や女が聞いて居りま



す。さう云ふ所から相當來るのであります。もう一つは迷信、所謂迷信にも色々ありませうが、變な神様が相當多いのであります。部落等に相當あります。よくは分りませんが、そこに行くといふ分る詩を書いて呉れると云ふのですが、神の命を受けて詩を書いてくれるが、それがよく當ると云ふのですね。「此商賣は儲かるかどうか」と神様に聞いて貰つて、外で待つて居ると、神様の暗示を受けて詩が出て来る。その詩が妙に、まあよく當ると云ふので殺到して行きます。それに類似した事が、外にも澤山あると思ひます。その迷信が廣がつて、それを信じて居る人達がありますが、それ等がデマを眞に受けて話すから、段々と廣がつて行くのであります。

下村 アメリカの防備の豫算の擴張

之は確かにさうだと思ひます。此前の防空座談會の時にも、その點に就て、海軍の方から、話をして貰つた方が良いと云ふ話を持ち出しましたが、無智な人ばかりでなく、相當に智識のある人達でも、日本は強いに違ひありませんが、金持の米國と競争するとして、どうかと云ふ、多少さう云ふ考へがありますね。從來の日本のやり方は外部に餘り發表しないが、蘇聯やアメリカが準備をして居るが、それに對して日本はしないのかと云ふ事を聞いて居りました。たが、議會の時なども國務大臣は準備は絶対大丈夫だと云つて居りますが、そんな事は新聞に一寸載る丈けでもつと積極的にさう云ふ話をした方がよくはないか、詰りそれは大丈夫で、英米一緒になつて來ても對抗する準備は出來て居るし、多くの飛

行機や、大砲や、軍艦があつても、物丈では駄目だ、それに訓練が伴はないと駄目である。訓練と云ふものは一年や半年で出来るものではなく、本當の訓練はどうしても十年位はかかる。鐵砲と機關銃を比べても、機關銃の方が高度の訓練を要する。御承知のE十六號は非常に性能が良いが訓練が伴はないと、むしろ性能の劣つた物にも劣ると云ふお話をしたが、さう云ふ所を明快に言つて貰ひたいものと考へて居ります。

猪口 私が見て居りますのは、直接の動機でなしに、原因に就いて考へて居ります。要するに生活の不安、壓力、思想、さう云ふ三點に就いて色々起るのでは無いかと思ひます。生活の不安に就いては、目下の國際情勢或は米國との關係等色々ありませうが、さう云ふ風を緊迫した世界情

勢のために生活や、生命の不安を感じて居る處から色々起つて來るのであります。流言蜚語にしても、大衆から發生する場合と、それから特殊の階級の示唆に依つて、發生する場合と、二種類の場合が大體あります。それから、それが廣がつると云ふ事になります。生活の壓迫と申しますと、先程申されました様に米の供出であります。實際調査したのでは無いが、行政の任にある人は餘程注意せねばならぬと考へます。米を作るにしても、苗代はかうやれとか、品種は之であると指圖して居りますが、出來た米は飯米を除いて皆供出しなければならぬ。さう云ふ風にしますと、一般の農民は希望とか、楽しみがなくなり生活に壓迫を感じます。やがてそれが不平になります。で例へば一甲歩五千斤の收穫で

あるが、六千斤になつた場合には何とか方法を構じてやる。いくら働いた所で仕様がなないと云ふ様な氣分になつては大變です。さう云ふ所は餘程うまくやつて貰はないと困ります。それから出資金がだん／＼多くなつて來ると、之も餘程考へにならないといけないと思ひます。又思想の上から言ひましても、まだ昔の様な思想が残つてゐないとも限りません。それをよく考へて貰はないと、さう云ふ事が起るのであります。第一線に立つ行政官、公務員の方に對して的確な、正しい認識をして頂き、生活の安定なり、安心を與へてお互ひに、國家のために協力して犠牲を拂つて進まうと、さうなければならぬと思ひます。

あれ等が關係して、色々本島人の金持の所などは何か、不安の氣持をもつて逃げる用意をする。町は危いとかいふて居ります。私共はあの時に懇々とやつてやりましたが、約二週間で止まりました。それから日本と米國が戦争をして、日本がどうも負けさうだから危ぶないと言ふ様な流言も起つて居りました。

若い本島人は國語が分つて居ても、國語の解らないお父さんとかお母さんとかさう言ふために非常に此流言蜚語が出る。しかし私共町に出て座談會などをして、すつかり分つたやうであります。皆で言つた、馬鹿な事を考へるのは意味がない。第一線は兵隊さんが戰つて居られるのだから、第二線は皆銘々商賣に勵んでよく働き、誤解しない様にした方が良く、そんな事を考へるのは誤つて居

細井 金元さん如何でせうか。  
金元 州の前に防空壕がありますが、



ると言つて聞かせました。一週間程前からもうデマは聞かせませんね、今度は大丈夫です。

### アメリカを恐れるな

ト部 やたらにアメリカを恐れると云ふ事は、お互に、新聞當りで見た頭があると思ひます。さう云ふ時には指導階級とか、上の方から何か良くさう云ふ事が分る種を撒いてやれば直ると思ひます。斯くあれかしを願ふ。例へばよく勉強して居る者は良いが、さうでないものは試験は無いさうだと言ふと非常に喜ぶと言ふ様なもので、さう云ふ分子がひそんで居りはしないかと思ひます。さう云ふ分子が、色々のデマを傳へるのでは無いでせうか、無智許りでなく、無智許りでしたら、もつと單純にな

りますが、アメリカに結び付けると云ふ様な事はないと思ひます。何かその邊に不安があると思ひます。それから最近流言蜚語が起つたのは、具體的に何時頃からでせうか。

下村 二月の中頃からでせう。

ト部 防空壕を造つたりしたから、あの様と結び付けたんですね。

下村 此前の防空座談會の時にも、強調して欲しかつたのは、相當の人でもですね日本の軍備力は相當に足らない様に思つて居りますし、軍備の数字的の事はむしろ言へませんが、相當の準備はあると云ふ發表がありませんから、相當の人でも、日本は強いとさうは言ふものゝ大砲も、飛行機も良い物があるしどうもこちらは、これではと云ふのであります。数がです。さう云ふ者が多少あると思ひます。現状に於ては絶対大

丈夫と云ふ事を、無論軍では考へて居られると思ひますが、さう云ふ所を、もつと言ふていたどきますといふと思ひますね。

ト部 軍備は絶対大丈夫であると言つても、それでも向ふは来んからと言つて安心してはいけないので、向ふが立ち直つてやつて来ると言ふ理論からいかなければ、アメリカ等に對する心構へと云ふ物が出来ませんね。

### デマの種々相

張文環 流言蜚語と云ふのは、しよつちゆうあるのです。それは戦時に限りません。蜚語が流言に、流行言葉にならない前になつたと云ふのが澤山あります。社會情勢や、一般民衆の生活感情の理性が弱くなつた時に、ひどくなります。此蜚語の性

質と云ふものが、その性質に依つて例へば、うまくその蜚語が事變とか或は社會情勢……その時のですね……に相應しい事になるとは一つと廣がる、生活感情が非常に理性が弱められた時に廣がります。私共の公學校の時分にかう云ふ事はやつて居りました。臺灣に於きましても、之は大きかつたものと思ひますが臺灣が海の中に全部沈んで終ふ。何かよく何處か沈めば、こちらが上ると云ふあれですね。厦門が浮いて、臺灣が沈んで終ふと云ふのが流行りました。それが何故臺灣が沈まなかつたかと云ふと觀音さんが十二枚のハカマをはいて、その中六枚も、すりへらして神様にお願ひをした。さう云ふ風な流言がありました。それからもう一つは昭和三年か四年頃に色々な思想、共產主義とか自由主義で

盛んに騒いで居りました時に、大本教か何かの言葉と思ひますが、世の終りが来た。今年の中に世界は全滅する。日本から日本人全部は全滅する。信仰をしなければ日本もなくなつて終ふと言ふ様な事を聞いたのであります。それと同じ様に宗教的に因なんだものが多い、だから臺灣の流言蜚語と云ふものを、今迄のものをよく検討して見ますと宗教的なものが多い。それで、デマの發生する原因を検討する必要がありますが、むしろ之は如何にすれば無くなるか、それを検討する方が手取り早いと思ひます。到る處にデマが出る原因はあります。たゞそれが一般民衆に廣がるか否かで違ひが生じます。

施江南 事變前に永樂町の廟でかう云ふことがありました。番人が一儲け

しようと思ひまして筈を落した。その片方が廟のテーブルかけにくつゝいたと言つて、神様の靈驗があると云ひ觸らしたのですが、調べて見ますと、ちゃんと糊で貼つてありました。(笑聲)城内とか内地人方面で防火演習をやつて居りますが、役に立たんでも宜ろしいから、本島人方面にも訓練した方がよいと思ひますね。やらないと、成程向ふではやつて居るが、「こつちでは何故やらないのか變だ」と言ふ様な、さう言ふ事もありますから、その點も氣をつけられた方がよろしいと思ひます。實際訓練を受けて居るといざと云ふ時に間違つかないし、又知らない側からすると、如何にも逼迫したと見て居ります。その點に就きましても、考へなければなりません。例へばさつきの供米運動にしても、中部



防空壕を澤山造りましたが、あの防空壕で相當神經を尖らした事になつて居りはないかと思ひます。新聞にも出てましたが、青年團員を選抜して十日程入營させて訓練する……自分達の團員も矢張り選抜されて軍隊の教練を受ける事になつて居りますが、軍隊の教練を受けて、さうして對岸に向つて進發させられるのではないかと、自分勝手な臆測を來たしてやつて來たのであります。どうも新聞等も讀まずに判斷して、今にも戦争が始まると思ふ感じを來たした者が多かつたのであります。之はどうしても、此動搖を防がなければいけないと思ひまして、對策の話を同時に申上げますが、團員を集めまして徹底する迄相當突込んだ所迄知らせたのであります。之は皆を安心させる目的でありまして、私の會

つての從軍した時の事を話したのであります。虎門要塞に從軍した時に參謀殿が巡視をされました時に、水の筒の水が無くなつた。その時に參謀本部で作つた地圖を見て、何處そこに向つてどれ程の距離を行つたら飲料水がある筈だと言はれるので、衛兵が早速駈足でそこ迄行きますと、果たして立派な水がありました。參謀は一度もその土地を踏んだ事もないし、又東京の參謀本部で作つた地圖であるに不拘、ちやんと水があつたのでして、我が皇軍の用意、實力、計畫等を絶対に信頼してよろしいと、其の他色々例を擧げて、要するに皇軍を信頼して、安心して生活する様にと、先づ最初に青年團員に言つたのであります。もう一つは極く最近の話であります。私の郷里が双溪の田舎でありまして、こ

らにある女學校の卒業式に參列するために、親戚がやつて参りまして、相當年を取つて居るものであります。……臺北の鹽はどうか、田舎では鹽の問題で心配して居る。貴下の弟さんも牛車で鹽を買つて歸へつた相だと話します。私は翌日直ぐに田舎に歸へりまして調べて見ますと、そんな事はありません。弟に尋ねて見てもそんな事はありません。たゞ二圓許り買つたと云ふ。それは家族も多いし、又一寸町から離れて居りますから、二圓や三圓買つて來るのは之は當り前ですが……「實はかう／＼云ふ話を聞いたが、どうして鹽を牛車で買つたと云ふ様な評判が立つたのか」と聞きますと、弟が「それは、臺灣語で言ふと運ぶと云ふ事も車になるし、自轉車と言ふ事も車と云ふ様に同一語になります。だか

ら自轉車で鹽を運ぶと言ふのが車と言ふ言葉に通ずるので、それを誤解したのでせう」とさう云ふ話です。それを聞いて成程さうであつたか、と思つたのであります。さつき今崎先生のお話の様に、自分が一番可愛いからで、てんでに買溜めしようと思ふ考へが間違ひなく出て居ります。眞に協力一致して、知らしめ、お醫者さんが病氣を直してやると云ふ氣持で、一日も早く此事變を突破しなければなりません。政府並に軍の方針に従ひまして、絶対にそれを信頼してをれば安心だと云ふ感じを起させる事が一番大事であると思ひます。

**全島に一大啓**

**蒙運動を起せ**

桂 各方面の方から色々御意見を聞

きまして、大變參考になりましたが、皆さんがおつしやるデマの原因と云ふ物は、多くは遠因であつて近因ではありません。あるのもありますが、遠因は皆が仰せの如く色々関係もあり、時局が非常に急迫して居りまして、生活の不安とか或は色々とありますが、直接の原因は矢張り何です。賣下者とか、童亂とか何と云ふのかわりませんが、一種の講談師の口から出たものを眞實なりと信じて、さうして自ら不安にかられてゐるのです。それは無智からで、平たく言へば全然目に一丁字も無い無智と、相當に學問があり、智識があり、新聞、雜誌等は讀むが然し軍事上の智識が無いと云ふ者もありません。かう云ふ無智を打破する。延いてデマを粉碎して終ふにはどうしたらよいか、色々原因に就いて、

僕の考へとしては、今からでも遅くはないから、之から一大啓蒙運動をやらなければいけない。今迄各方面からのお話を聞いて、御意見はよく分りましたが、此點に一寸も觸れて居りません。一大啓蒙運動をやらなければいけません。所謂指導階級、智識階級に立つて居る人々を集めて、さうして講演なり。或は雜誌なりで、此無智蒙昧を啓發して行かなければならぬと思ひます。之は僕は非常に効果的であり、非常に顯著な物があると云ふのは、此度の北防婦人會で修養した者に依つて話された、一日か二日の演説位で、もう貯金が殖えたと云ふ様でありまして、どうしてもかうやらなければいけない、之を忘れては何んにもならない、百の議論も効果がないと思ひ

ます。内地人に對して啓蒙運動をやるのではない、本島人に對して無智な階級に對してやれば充分に意義があり、又充分に徹底しますよ。噲んで含くめる様に、分らさずには置かない、徹底的に分らす様にしなればいいけません。臺北許りでなく、全島的に互つて演説行脚をやる必要があると思ひます。それから所謂此デマの發生する、デマを仕立てる、或は造言者と言ひますか、之に對して相當な取締りをする必要がありま

す。先程からも色々とお話がありましたが、生活不安を除去するとか、生活壓迫を緩めてやるとか、不安を與へる事も成る可く此際避ける方がよろしいと思ひます。

今略 無智の點に就いては賛成です

ね、「ばいきん」が漫延するのも不衛生な素地があるからですからね。恐らく無智な民衆がその素地ではないかと思ひます。私無智と云ふ物に就いて龜山君の言はれました一つの言葉の中に、二つ考へられると思ひますが、一つは無教育な無智でありまして、他の一つは現在の情勢の真相を知らない二つと思ひます。恐らく之は無教育に對しての無智でせうね。

特徴として、人から人に傳へる場合にそれが大きくなると思ひます。豫防対策等は恐らく原因に關係すると思ひますが、今仰せの事で盡きると思ひますが、無智に對する対策所謂無教育の無智と事實の真相を知らな

**日本の實力を信頼せよ**

西村 非常に良いお話を聞かして頂きまして、餘計な事を申上げる様で必要もない事と思ひますが、流言蜚語とは言ひますけれど、大體大衆の教化の程度を考へれば、デマは當然の階級にもあると云ふ話でありましたが、その通りでありまして、それ

を恐れてはいけません。先程お話の如く悪質なものには嚴重に取締る必要がありま

すけれど、何と云つても無智の大衆であり、良く言へば正直な大衆でありますから、よく説き伏せて

つと一月に七、八十位のものですよ。それから流言は又之をうまく利用すると好い結果を齎すこともありま

す。一番何が必要な事かと言ひますと、日本が一番強いのであるといふ事を知らしめないといけないと思ひ

ます。報道部にお願ひしまして、積極的に日本の現状はかう云ふ物だと云ふ事を、堂々と見せて頂く事がよろしいのではないかと思ひます。

龜山 本島人に對して如何なる方法をもつて、どう云ふ階級に對してやるかと云ふお話ですが、我々は無智の大衆を相手にして、それに對して如何なる方法でやればよろしいか、むしろ無智の大衆はラチオも新聞も取

つがりますが、數の事になりますとそれは別問題でありまして、數以外に頼む所がありますから、海軍の方でもやつて居られる事と思ひます

ト部 實はアメリカ當りの所謂紙の上の計畫は膨大でありまして、それ丈しか見ないものですからね。殊に陸軍の如きは問題にならないです、飛行機は何萬機などと言つても、や

せんが……。

機が澤山飛んで居る處、演習の行進して居ります處とか、さう云ふ映畫を、はつきりした筋ではなくても一部分でも、強い、しかも膨大な物であると云ふものを見せるのも、良い結果になりはしないかと思ひます。放送部長さんや、文書課長さんのお話にもありましたが、アメリカの何處その座談會で日本をこれ丈恐れて居ると、間接の言廻しでよろしいから民衆に對して知らしめる事が又効果があると思ひます。私は一番良いのは公學校の先生方を動員して、修身とか朝會の時間を利用して、學校の兒童にさう云ふ事を吹き込んで、又部落振興會とか、青年團とかに話して之を知らしめる、さう云ふ風にしてはと思ひます。或程度迄日本の國力を知らしめないと、たゞ恐れるに足らんと云ふ丈では効果が無い

と思ひます。殊にアメリカは戦費を膨大に發表して居ります。その關係で日本の國力も發表しなければいかんと思ひます。

ト部 北署長の話であります。外國の、アメリカでも、イギリスでも戦争に對する經驗の浅い都市であります。だからあちらでは他所が可怖いのであゝ言ふが、日本は實際の時に使ひますから、丁度刀がさやの中にありと伺ひ様に、沈黙の威力があると説明して居りました。

### 女のお喋りは デマの女もと

張文環 集合と云ふものがですね……お祭りはなくなつたし、神社があつてもたゞお参りに行く丈で、一年を四季に分けてお参りに行く丈で、百姓は普通は暇がないので何ん

にもやらない。それで時局の解説とか、或は東亞共榮圏とはどう云ふものであるかと云ふ事を、地方の有力者を通じてさう云ふ時に一般民衆に知らしめる。又もう一つは集合の許可をせず、しかも娯樂を止めるとばくちとか或は、遊戯場とか女郎買とかをやつて、そのために喧嘩をする。家庭でややくそのな危機が起らないでもない。結局娯樂を許可して、時局の解説を、學校の先生或は農村の有力者を通じて、そこで解説をする。それからもう一つは宗教運動を許可する。もつと具體的な方法でやらなければなりません。之等を積極的にやりますれば例へばデマが出て來ても、大した物にはならないと思ひます。

龜山 我々が實際に臺灣語で演説會をやつて、自分が言つた事の反響を、

實は色々の人を通じて聞いたのですが、實際驚いた事には餘りにも聴衆は智識がないと云ふことであります。大龍嶼で聴衆が千人ばかりあつたのですがその中で公學校を出た人は僅か十人許りです。だから私も大分俗な臺灣語を使つた積りであります。分所が十分に分らない。六つかしと云ふのです。さて啓蒙運動に就いては抽象論では話にならない。もう少し具體的にやればと云ふ事になりますと、二つに分けなければならぬと思ひます。無智蒙昧を相手とする事が先決問題で、啓蒙運動の第一に登らさなければならぬ。さう言ふ手合は東亞共榮圏などと言ふやうな事は分らない。私が言ひました事の反響の主な物一、二を御参考迄に申し上げますと、一般に非常に我國の實力を過少に評價して居ります。

米國の豫算の膨大なのを聞かされたりして居る關係か、どうも米國は持てる國だと云ふ先入主があるために、飛行機も、軍艦も多い。金も多い。それに反して日本は弱いかから喧嘩すると負けると云ふ氣持を多分にもつて居ります。申す迄もなくその方面に對する認識を改めさせなければならぬが、幾ら話しても分らないのです。で色々の例を擧げて説明してアメリカの水兵が……かう云ふ事は智識階級に言つても本當にしないが、艦の中で女とダンスをする。艦には遅れて歸へつて來ると云ふ事は何時もの事だが、日本の兵隊さんと比べてその態度が違つて居ります。戦争の相手にならない。その他軍艦の訓練と云ふものは、さつき下村課長さんの御話の如く、訓練の時間と云ふものが五年乃至十年掛

る。だから要するに戦争は人の問題である。アメリカの兵隊が出て行く時には、埠頭や停車場で抱き合つてキツスしたりして居て、緊張と云ふ氣分が無いが、日本の兵隊さんが出征する時は驛でも、埠頭でも、非常に緊張して、生命をすてゝかゝつて居る。向ふではたゞ俸給を貰ふために兵隊になるのだと、色々さう云ふ事を話しましたが、さう云ふ事が一番頭に残つて居ります。もう少し話した中で、一番感じたのは、今重慶はかう云ふ謀略にかゝつて居る。その例として南洋に於ける重慶政府の宣傳として、日本の政府が悪いと宣傳して居る。それは赤ん坊を警察官が連れて行つて殺して終ふと云ふ事を、盛んに宣傳して居る様である。もう一つの例として、本島人が反抗するといけないから庖丁さへも持た

して居ない。茶刀がないために臺灣の者は料理するにも困まつて居るが、皆の家庭はどうだと云ふ様な事を言つて居るが、之は逆に考へて、重慶政府の一つのスパイが入つて居る。謀略が入つて居る事を知らなければいけない。さう云ふ風なものにひつかつて、本當に暴動を起すと重慶政府の思ふ通りになつて、彼等は色々勝手な事をするに違ひないと感じたのです。桂さんや、さつき色々、精神的不安、民衆壓迫とか、さう云ふ方面を緩和する事が好いと云ふ話で、それは真理ですけれど、もかう云ふ大事に於ては、ある程度民衆生活を壓迫する形になるのは已むを得ないのでありまして、取扱に於いて、もう少し親切に、温か味、温かい氣持でなければならぬ事は同感であります。講演會の話であり

ますが、一昨年の冬上海に行つた例を引つ張り出して、寒い冬に上海に行つた時に、避難民が澤山居つて、住むに家なく、着るに物なく、南京路から物好きに一巡したが皆そこらで赤ちやんを抱いたりして寒さにふるへて居る。停仔脚もなければ何にも無い所で雪のかゝる所で顔へて居ります。その恰好は如何にも惨めであつた。共同租界からフランス租界にかけて一晩に四、五百人死んだ。寒さのために死んだと翌日の新聞に書いてありました。頼さんが仲々面白く聴衆を笑はしたのですが、如何に戦敗國が惨めであるか我々は日本人であるが、日本が負ければ、同じ船に乗つて居るのだから我々も惨めな目に會ふ。だから負けてはならぬいとまあかう話すより外に方法がない。外に仕方がないのであります。

國家の觀念等と云ふのは餘り分らないので、同じ船に乗つて居るからと云ふより外に方法がないのであります。講演會も家長よりも婦人を引つ張り出して聞かせる必要があると思ひます。男より女がお喋りで、物好きです。煽動される事が多いのであります。むしろ家長を呼び出すより、むしろ家庭の主婦を呼び出す方法を考へなければなりません。もう一つ我々が恐れて居りますのは、最近寺廟整理がやゝ緩和されましたが、それに對する影響が大きいのであります。管理者が失業をしまして、さうして當局を恨む、そこから流言蜚語が飛び出すのであります。假りに佛像を焼いたりしますと、天に眼があれば今に仇を取つて呉れる。之は臺灣語で非常に人を恨む言葉ですが、そんな場合に大衆はそれ

を信ずるのであります。神様を燒くと天罰がある。かう云ふ方面に充分の心を加へてやらなければいけないと思ひます。要するに宗教の力をもつと眞剣に考へるべきであります。臺灣に於ける農村の楽しみはありませぬ。皇民化運動から云ふとよろしくない事ではありますが、必要な面白い劇を見せるとか、映畫を見せるとかしてやるべきと思ひます。臺灣には農民芝居とか、「舊劇」とかいろくありまして、それを取り上げたなら、楽しみがなくなつてしまふ。金銀紙は神様に上げる物ですが、それもいけない。爆竹を鳴らしてもいけないとなつて楽しみも何んにもない。それが要するにデマ發生に働きかけて居るのではないかと考へて居ります。弊害があつて取り上げるのはこれは當然ですが、取上げ

たら必ずこれに代るべきものを與へなくてはならないと思ひます。

### デマ粉砕の具體案

細井 啓蒙運動を起す事になりますと、或は座談會とか、講演會とか色々考へて、近い中に始めようと思つて居りますが、先程一寸出ましたのが地方は顔役に一任しようと考へて居ります。

黃炎生 私に宣傳方法として座談會も、講演會も必要と思ひます。それ以外に忘れてならないのはラヂオと新聞ですね。最近の新聞でも、ラヂオでもさうであります。大して、かゝり申上げると失禮ですが、興味がありません。之は私一人が申上げるのではありません。ラヂオや、新聞には重大な使命があるものと思ひま

すが、然らば大部分現在行はれて居りますラヂオ、新聞の編輯の方法で良いものでありませうか、大部分再檢討の必要はないかと思ひます。第二放送が近き將來行はれると言はれて居りますが、此深川さんに伺つたのであります。さう云ふ事は一年も二年も待てないと思ひます。事變が斯の如く逼迫して参りますと、宣傳の實績をあげるためには、從來の漢文欄を廢止したので、舊い階級の人は新聞があつても之を讀めない。戦況の事が多く、後は影響のない社會記事であります。絶對多數の、大部分の階級には分らない。若し政治が漢文で書いたものであり、戦況ニュース等も漢文でありましたならば、恐らく、之を讀むものは多いのではないかと思ひます。問題は實績を挙げる意味に於て、多少のも



のは記事にすべきか、或は方針が飽く迄之だから、目的は近き將來に効果を擧げなくともよいと云ふ考へであるか、どちらかと思ひます。

細井 ラヂオの受信機も相當手に入りさうでありまして、情報部の方も啓蒙運動の一つとして計畫しかゝつて居りますが、事務的に仲々忙がしいので抄どりません。娯樂問題につきましても、色々の各方面の方々の専門家や、一般の有識者の方々に聞いてこれが助成を圖つて行きたいと計畫してゐます。娯樂問題にしても、信仰の問題にしても、良いものと悪いものともあります。改善するにしても、輕率には出来ない。かといつて放つておくわけにはいきませんから、私の方でもいろいろ計畫を立て、應急的ではありますすがやつて居ります。それから「デマ」と云ふ物は一

つのニュース、報道に對する飢え、飢餓ひもじさでありまして、そこにデマが出て来る。ひもじいからそこに何か出ると喰ひつくのだ」と或る本に書いてありましたが、それで真相を知らず事は良いとしても、矢張りそこに惱みがありまして、發表出來ないものがあります。デーリー・ニュースが……之は有力な新聞でありますすが堂々と、「戦争をしても日本には敵はない」とか米國の一般民衆も感情的にはどうのかうのと考へて居りますが、今は日本と戦争したら負ける」と新聞に書いて居ります。あゝ云ふものを逆につけて來て使ふ事は非常に良いと思ひます。

ト部 今この漢字新聞の事は良く分らないが漢文の讀める人で國語の讀めない人があります。ト部 隨分ありますよ。ト部 大體此の國語普及が、總督府の方針でして、漢字新聞を啓蒙運動に使ふと云ふ事は外國に對してもよくないと思ひます。それは切りはなして行かないと……あの……新聞は、内地人にして、東京、大阪と色々ありますが讀みこなして居る人がどれ丈あります。だから漢字にして見たつて大した効果がないと思ひます。ト部 然し年寄等が讀む新聞は一つもありませんからね。ト部 それ等は別の方でやるとして、今迄の方針をとほさなければ……ト部 私と言ふのは國語普及の方針に反しようと言ふのではなくて、已むを得ざる場合は仕方がないとしてやると云ふので……ト部 それは別の問題で、それ丈で果

して効果があるかどうか、外の外國の問題で六つかしいですね……

細井 漢字新聞にしても、臺灣語の放送にしても手段の問題で、臺灣としては國語普及と云ふ事は、大方針、大政策として擧げて居る。手段のために放送も臺灣語でやり、新聞も漢文にする。一般大衆は誤解する事があります。只宣傳啓發と云ふ事から考へると、臺灣語もやつて貰ひたいし、漢文新聞で書いて貰ひたい感じもしますが、一方、大方針、大政策大目的がありますのでこれを阻害しない範圍に於てなさるべきだと考へて居ります。

林 私の方でも、第二放送で臺灣語をやつて、一部は國語普及をどん／＼やつて居ります。誤解の無い様に……。國語普及のためにやつて居ります。宣傳の手段は對華僑、對南洋に

對する色々の宣傳でやつて居ります。大方針に背かない便宜のために使ひます事は……

施江南 一つの方便として使ひます事は、あまり懸念する事はないと思ひます。それは私などの今度の演説で

も、臺灣語で喋るよりも、國語の方が樂であります。臺灣語の方はもうきこえない様になつて居ります。細井 いろいろ有益なお話をして戴きました。まして有難うございました。今日はこれで閉會したいと思います。

臺灣總督府情報部編

手輕に 出來る 青少年劇脚本集 第一輯

四六判美裝・三四〇頁

農村健全

贈へな 樂

近頃臺灣に於ける舊來の生活面が祖上に載せられ、この一つの現れとして、從來民衆の間に親しまれて來た支那式の演劇が再檢討せられるに至り、その弊害に對して制肘が加へられるに至つたことは、まことに當然であり、又已むをえない次第であるが、ただ弊害があるからと言ふ理由で全然演劇を取り除いてしまふことは、策を得たものではない。むしろ健康な、しかも明らかな演劇を生活の中へ芽ばへしめ、それを育てることが大切である。この意味に於て本書は在臺の文藝作家に依頼し、農山漁村に健全なる娯樂を提供すると共に、慰安の中にも新時代に於ける臺灣の建設的な意意を逞しく盛りこんだものである。

臺灣時報發行所 總發行所 內





ものでもない。然し斯うした組織は何等計画的行動には出なくても此の組織の線に沿つて自然に諜報資料は中央へ集まつて来るものである。救世軍の街頭宣傳に社會の動きは必々と迫るであらうし、教會で語る信者の生活に社會各層の躍動が反映するであらうし、外國商館の營業を通して經濟、生産、貿易の狀況が窺はれるであらう。特殊な指令を發し、或は特殊な調査を爲すまでもなく、此組織網は其儘で幾千、幾萬のマイク・ロホンになつて、我國のあらゆる狀況を、之等の組織の中心にさゝやいてゐたのである。

もう少し積極性を持つたものに、例へば數年前、自動車試験、或は宣傳と稱し、學生團に自動車を提供し、長距離自動車旅行を行はしめ、其の旅行記によつて我國の道路網と其の狀態を調査した事例があり、又文化交流と稱し、英語を學ぶ學生や智識階級と種々の資料を交換し、國情調査をした者があり、商品取引、販賣斡旋を装ひ、種々の經濟調査をした者等は數限りもなく存在した。更に又國內のあらゆる出版物、新聞、雜誌から膨大な資料を集積してゐる。最近某國機關の國內出版物購入の量と範圍を見ると、我出版界の

あらゆる部門に亘り、其中には局限された専門的なものさへ多數蒐集されてゐて、係官を驚かした。之等の手段によつて、機密文書を無理な方法で盗取したり、多額の報酬で人を買収したりしなくても、或程度の諜報の目的は達し得るのである。事變以來各地の古本商人や、繪葉書帖、地圖、書籍帖から莫大な繪葉書、地理書、寫真、市街地圖等が蒐集された如きも亦此の手段の一種である。

### 諜報の目的は何か

現代の戦争は戦闘のみを意味しない。一國の國民思想に隙があれば、之を煽動して離反を策すであらう。經濟的缺陷があれば之を利用して民心の不安を挑發するであらう。軍備、補給に弱點があれば恫喝外交を以て威迫して来るであらう。更に進んではあらゆる周到な準備と計畫の下に謀略、破壊の手段まで行つて来る。其の基礎になるものは一國の政治、經濟、思想、文化、軍備、國民生活の一切に亘る調査の精粗如何である。更に個々の問題に言及す



ると、一國の物資の動き、生産擴充の方向、其の蓄積を知つて國力と國の意圖が判明し、兵備、兵器の狀況を知つて兵力を推知し、之に對する戰備或は對策が樹てられる。殊に最近の有力な戰爭一形態となつた空襲戰の爲め、或は破壊的謀略に詳細な地圖、重要施設、

建築物の寫眞等の蒐集が重大な意義を持つものとなつて來た。  
諜報はさうして防ぐか  
映話や小説に、獵奇的に取扱はれてゐるスパイ物語の如きもの丈が、諜報活動のやり方であるならば、

其の防遏はさほど困難なものではなく、國民全體の周到な訓練を要望することもあるまい。斯うした専門的スパイも、現實に存在してゐることは、勿論否定は出来ないし、又現在の此種スパイの戰術は第一次歐洲戰の頃からみれば、遙かに其の技術も組織も進歩してゐる。然し所詮之等のスパイの活動は局限されて居り、且つ之を防遏する者は大體に於て警察憲兵の専門的技術に依つ外はない。然し右に述べた膨大な組織を持ち、或は公然合法的手段を以て行ふ諜報活動は、警察や憲兵の活動のみを以て到底防遏出来るものではな

い。其上現在では此種の公然、合法手段に依つて行ふ諜報活動が、寧ろ諜報活動の全體になつてゐるのである。警察憲兵の本務とする防諜が積極防諜であるなら、其他の諜報活動防遏は正に消極防諜である。消極防諜の要諦は一切の資料を敵の手に入れないことにある。其の防諜の主體は正に國民全體である。  
防諜と法令  
防諜は國家として重大な問題である。故に法令は勿論之に重い刑罰を科してゐる。要塞地帯法、軍機保護法、軍用資源秘密保護法、或は近く施行される國防保

安法等即ち之である。然し法令に抵触さへしなければ何を發表してもいゝと云ふ、自由主義的な罪刑法定主義的な考へ方は防諜に關しては適用さるべきでない。現在防諜上秘匿を要する事柄は、防諜法令の規定する範圍内では甚だ不充分である。法令が嚴罰を以て禁止してゐる事項は、最小限度且つ最悪質の事態に止まつてゐる。故に現實には此の範圍より遙かに廣汎に互つて秘匿しなければならぬのである。

斯く言へば「何故必要の範圍まで禁止規定を擴大しないのか」と云ふ質問が出るだらう。然し防諜と云ふ

### 萎縮か、新進路の開拓か

防諜の爲めの秘匿範圍の擴大による業務、教育、宣傳、情報の窮屈さと支障と云ふ問題がある。現に最近實行してゐる寫眞、地圖、圖表類、諸統計の發表、公示差控によつて多大の不便と支障を感じてゐる。然し一面に於て之は仔細に考へてみると、從來放漫と言ふべき自由放任、無統制の下に置かれた過去の習慣を標準としてゐるからであつて、現在斯かる考へ方が容れられぬのは當然である。若し「之れでは仕事も、教育も、宣傳も、報道も出来ない」と言ふなら、そんな人は時局下の國民としては既に落伍者である。ある丈の統計や知識を一切合財ぶちまけなければ何も出来ないと言ふのは餘りにも無爲であり、無思慮である。文章の記述に、演説、講演に、圖表、記録に、報道、報告に、防諜的考慮を一步超越した新しい表現の技術なり、技巧なりが工夫されて然るべきである。「寫眞の寫せる場所が制限されて面白くないから寫眞を止める」と云ふ人は、直ちに寫眞は止めるがよい。防諜を考慮し、之を一步超越して研究的に、機械と材料を



(頭脚・中のスバ) るゐもに處何はイハス

驅使し、新しい技術と技法の分野を拓き、日本の寫眞界に貢獻しようとする種々の人が増加すれば、それこそ日本の寫眞界の爲めに喜ぶべきことである。

### 何を秘匿すべきか

夫れでは何を、如何に秘

匿するか。先づ軍に關する事項は陸、海軍省、報道部等の發表したもの、他は殆ど悉く秘匿すべきものと考へて略々誤りはない。次は軍用に供する資源、施設で、軍用資源秘密保護法は種々細かい規定をしてゐるが、大體物資の生産額、生産能力、

設備、貯藏額、貯藏設備、増産計畫、移輸入計畫、鐵道輸送能力、通信施設能力、其他飛行機、自動車、飛行場、重要技術者、試験研究等の發表を禁じてゐるものと考へていゝ。之等の事柄は、秘密性の比較的高いものである爲、大體に於て大なる過誤は來さない。問題は是れ以下のものに多い。之等の秘匿事項を悉く詳細に列擧することとは、それ自體が秘匿事態に抵触することになるから、茲には一般に最も關係の深い事項の概要を擧げるに止めたい。詳細は警察官署の指示に依つて領會されたい。

- 一、發表してはならない寫眞類
  - 主要工場、事業場、貯藏場、電信、電話、無電施設、鐵道、停車場、發電、變電、送電、重要建築物等の全貌を表はすもの、附近の地形と共に表はしてゐるもの。
  - 主要な港灣の施設。
  - 地形を表はすもの、岬、半島等海岸の特徴を表はすもの等。
- 傳畧寫眞
  - 軍機保護法には被寫體から二十米以下の場合を除くことあるが、實際は之れ以下の場合でも取締を要するものがある。
- 二、地圖類の制限
  - 地圖に就ては、上述の諸

施設の記號其他の標示を差止められてゐるものが非常に多くなつてゐる。殊に要塞地帯の如き地域は制限が強度になつてゐる。

從來自由に賣買された市街地々圖の如きものは、都市空襲上好箇の資料となるものであるから、荷も疎略に取扱はぬ様、注意が肝要である。

### 三、圖表類の制限

種々な設計圖、構造圖、諸生産、消費に關する統計、圖表、貿易、氣象、運輸、工程に關する統計書等の取扱に注意しなければならぬ。年鑑、統計書の類は業務、教育上甚

だ重要な資料である反面、防護上の危険も大きい。文書謄報の最も貴重な對象になるものである。

之等のものは從來自由に巷間に流布されてゐたもので、警察や官廳の手で今之を一掃することは到底出来ない。國民各個の自覺に基いて不要のものは警察、憲兵に提出し、入用のものは嚴重保管の責を負ふ覺悟がなければならぬ。よく「そんなものは今更喧しく言つたつて世界中の人が知りつくしてゐるではないか。外國の本にだつて此の通り掲載されてゐる」と言ふ人がある。成程其通りである。

其通りであるから、之を制限する必要が起つて來たのである。此の論者の考案で行けば、永久に文書謄報の防衛は出来ない。不利益が明かとなつたから、即ち今迄間違つてゐたから今後改めるのである。

又此の制限は職務上、業務上、必要缺くべからざるものまで強制して取上る趣旨でも、悉く廢棄を要求する趣旨でもない。防護の理想は善良な國民には凡てを知らしめ、他國には何ものをも洩さぬことにある。極端な制限の強行は國務の遂行をさへ阻害することになる。茲に防護上の技巧と、國民の自覺が要望される理

由が存するのである。

## 宣傳、謀略と防諜

### 宣傳はさう行はれたか

謄報によつて得た資料から判断し、工夫を凝して種々な宣傳が行はれる。宣傳と言つても支那事變當初から今尙將政權が躍氣になつてゐるデマ宣傳、例へば上海埠頭の出雲が五回も沈没したり、奪還したと稱する前線の都市に依然として日章旗が翻つてゐたりする類のみでは決してない。ラヂオと映畫の發達は、今日斯様なデマ宣傳を維持して行

くことを困難ならしめてゐる。北佛で獨逸が文化の破壊をしたと宣傳したが、翌日獨逸兵が完全に獲つてゐることを映畫で證明したことで、この宣傳は逆効果を示した。ポーランド戦線でも幾多斯様な事例があつた。今日では斯様な宣傳は極めて幼稚な民衆相手の局



部的效果以外に狙ひ所はない。宣傳のやり方は膨大な組織と、機構とを以て、極めて合理的に掩ひかぶさつて行くのである。虚偽は今日の宣傳には用を爲さぬ。我々は曾ての共產主義運動が、終然と系統付けられた理論體系と、之と一連の實踐戰術を持つて、如何

に我國の青年智識階級を騙つて、皇國に對する叛逆の道を歩ましめたかを想起する。無産階級運動の一面に存する論理感によつて、如何に我産業が攪亂され、國民の精神的結合が阻害されたかを見た。自由主義、民主主義が如何に民族と國家の發展を妨害し、皇國精神を曇らせたかを訓へられた。之等は思想謀略の典型的なものである。

此種に屬するものに世界平和を讚美し、軍備縮少を強要して來た卑劣な謀略もあつた。民族の發展を恐れ、優生學、母體の保健と云ふ美名の下に産兒制限の宣傳をした事もあつた。純

爛たる物質文明を背景とし、文化の普及宣傳に名を借り、素朴な國民の憧憬の念を誘致し、殊に上流社會に喰入つて意の儘に之を利用した事例も傳へられた。宗教の宣布に依つて民心を把握し、之を通して住民と土地を奪つた振舞は過去の殖民政策のみでなく今尙行はれてゐる謀略である。

一國の經濟的弱點を狙つて爲される宣傳は、更に痛烈な具體的危害を齎す。事變後の臺灣に預金の引出し、部分的取付の行はれたのは本島人に對する支那側の宣傳の影響であつた。物費の缺乏も、重大な不足もないのに、スパイの一人が



流言を流布すると怒り賣惜  
み、買留めが行はれ、流通  
が停止して下ふ。

一葉の寫眞も説明の仕方  
で立派に宣傳の材料に使は  
れ、延いては民衆の不安、  
前線兵士の焦燥を招き、厭  
戦、反戦氣風を醸成し、國  
民の結束を紊す資料とな  
る。宣傳と輕んじてはなら  
ない。其の効果は絶大なも  
のがあり、恐るべきものが  
あるのである。

過ぐる日、フランダース  
の野に、はじめにも敗れた  
英佛軍の敗因の一つとして  
アンドレ・モーロアは「獨  
逸機の空襲は、僅かに沿道  
部落の二三箇所小さな破  
壊をしたに過ぎない。然し

第五部隊の放つた謠言の爲  
めに民衆は畏怖し、どうす  
ることも出来ない恐怖心か  
ら遂にあらゆる都市、部落  
民をして、あらゆる道路を  
埋めて、雪崩の如く避難せ  
しめた。英佛軍は此の避難  
民の雪崩に阻まれ、妨げら  
れて部隊の配備も行動もな  
らず、兵士は此の光景を  
見、其の恐怖心に誘ひ込ま  
れて戦闘意識を失つて行つ  
た。」と云ふ意味の事を述べ  
てゐる。ノールエー戦に、  
バルカンに、獨逸の第五部  
隊の活動に全歐洲は畏怖し  
て何事も爲し得なかつた。  
此の恐るべき混乱、惨敗  
が、一片の宣傳戦の効果の  
みであると言ふのではな

は、獨逸のデンマークに對  
する大れを思ひ起せばい  
い。

斯様な大規模のものばか  
り考へなくとも、事變下の  
我々は日々此種の宣傳、謀  
略の危険に曝されてゐる。  
巧妙な方法で潜入して來た  
敵のスパイは、何時何處に

い。然し、同時に、宣傳の  
大きな効果を否定すること  
も出来ないであらう。

### 謀略はごんな 事をするか

宣傳と謀略は区分し難い  
ものもあり、宣傳自體が謀  
略になる場合も存在する  
し、謀略の手段が宣傳であ  
る場合も甚だ多い。

近來の謀略で最も重點の  
置かれてゐるものは經濟謀  
略であらう。其の手段は遮  
断と破壊である。遮断は米  
國の我國に對する石油、肩  
鐵等の輸出禁止の如き其の  
一例と言へるが、目標國の  
あらゆる勢力圏に對し、流  
入を阻止する爲めに、其の

國外で之を取巻く地域に種  
々の施策を施して入れない  
策を構するのを普通とす  
る。破壊は其國內に於て物  
資の運送中、或は貯藏所に  
放火したり、爆破を行ひ、  
之を消滅せしめるのであ  
る。近代戦が甚大な物資を  
消費するものである限り、  
此種の經濟戦の効果は絶大  
なものであることは亦言ふ  
迄もない。

或は又宣傳戦によつて、  
目標國に對する反感、敵愾  
心を高め、數國同盟して一  
國を外交的に抑壓する。此  
の外交戦も亦謀略戦の一種  
である。  
支那事變以來、支那側は  
臺灣に對し、諜者を潜入さ



寫眞撮影に注意

臺灣地帯内は多量の  
と(臺灣地帯)は多量の  
十米以上の空中高  
所からの偵察撮影は  
台湾に於ては何處も許  
可と申しす(一) (二) (三)  
水車に撮影した場合撮  
影地帯から水車を引伸し  
た線と被寫体との高さ  
が二十米以上ならば偵  
察撮影になりす。

せ、所在に謠言を流布し、  
民心の不安を誘ひ、無習の  
民衆に働きかけて臺灣の治  
安擾亂を企てたのも正に一  
つの謀略である。もつと痛  
烈な謀略戦の實例は、現に  
歐洲に於て獨逸國對英米側  
によつて日々繰返されてゐ  
る。其の最も成功した事例

は、獨逸のデンマークに對  
する大れを思ひ起せばい  
い。

出沒するか分らない。人氣  
も、火の氣もない處から火  
を發し、重要資財の燒かれ  
ることもある。重要な交通  
通信機關が破壊されたり、  
所謂細菌戰術などによつ  
て、經路不明の傳染病の流  
行を見たりする實例もある  
のである。國外では日本の  
誹謗が渦を巻き、日本人で  
さへ「或は！」と疑はしめる  
事さへあるのである。

### 宣傳、謀略に 對する國民の 心構へ

敵側の謀略、宣傳に對し  
ては、官廳側ではあらゆる  
方法で之が防遏に努め、排  
撃を行つてゐる。又國民に  
對しては積極的に國の情  
報、啓發宣傳を行つて、國  
民を指導し、敵側の策謀に  
乗ぜられないことを期して  
ゐる。然し之で之で完全な  
防遏が出来るものではな  
い。國民全體が政府を信頼  
し、敵の宣傳や謀略に乗ら  
ない肚と警戒が出来てゐな  
ければ、防ぎ得ないのであ  
る。官廳がやかましいから  
とか、警察が命令するから  
とか云つて、止むなくやる  
のであつては決して効果は  
上らない。戦線の兵隊の氣  
持で、「と云ふ標語を掲げて  
行ふ誠私奉公の念のみが克  
く此の防遏の成果を擧げ得  
るのである。  
此の心構へさへあれば、



宣傳、謀略を防遏すること  
はさして難事でない。之を  
基本として、臺灣在住の内  
臺人として特に注意を喚起  
したい二三の問題を取上げ  
てみたい。

### 流言蜚語と 宣傳、謀略

支那事變勃發以來、臺灣  
には割合流言蜚語の悪質な  
ものが多かった。之は臺灣  
の特殊事情と、皇民錬成の  
不徹底に基因し、又教育の  
不十分と世界の状況に疎い  
ことによつて拍車がかけら  
れた。流言蜚語は元來社會  
民心の不安に原因し、一旦  
之が流布されると著しく民  
心の動搖を來し、殊に戦時

に於ては防諜上最も危険な  
温床となるのである。若し  
敵のスパイが斯る傾向を利  
用し、宣傳、謀略を行つた  
なら、其の結果はどうなる  
か。恐るべき事態を發生せ  
しめ、收集すべからざる混  
亂、無秩序に陥らしむ惧も  
杞憂ではない。而もさうし  
た場合の直接の被害者は、  
不安に戦き、動搖を來した  
民衆夫れ自體なのである。  
流言蜚語に踊る民衆はかく  
の如くして敵に利益を與  
へ、自ら敗殘に陥るもので  
あつて、之程馬鹿氣た事は  
ないのである。少くも臺灣  
に於ては過去は勿論、近き  
將來に互り、島民が何かの  
恐怖を感じ、政府に對する

信頼を失ひ、我軍の實力を  
危惧しなければならぬ様な  
事態があつたか。又今後あ  
り得るだらうか。若しある  
と言ふなれば之程救ふべか  
らざる無智はない。無智で  
ないと言ふなれば、それは  
叛逆者である。我國は今や  
新しい理想に燃え、八紘一  
宇の精神を以て、東亞民族  
を率ゐ、新秩序建設の爲め  
に戦つてゐるのであつて、  
衰滅にあへく蔣政権や、英  
國とは違ふのである。國民  
中に斯かる愚妄の徒があれ  
ば、全國民は此の蒙を啓い  
てやる爲めの、嚴重な訓戒  
を與へる義務があるのであ  
る。民衆の中から不安を抱  
き、或は之が流言蜚語とな

つて民心の動搖を誘致する  
如きことがなくとも、戦時  
下の臺灣の如きに於ては、  
敵側スパイの爲め、或は敵  
地からのラヂオ放送、通信  
によつて宣傳謀略は行はれ  
る。全國民は一致協力して  
之を排撃し、其の本據を突  
止め之を撃滅することに力  
を致さねばならない。之が  
爲めには皇軍の實力を認識  
し、政府を信頼し、隣佑相  
率ゐて鐵石の結束を堅めて  
ゐなければならぬ。不安  
を抱き、動搖する如き民衆  
を啓蒙し、指導して行くこ  
とは、臺灣に於ては青年、  
智識階級の新しい任務であ  
る。殊に本島人大衆の國家  
意識の振作、國民的信念の

漸養、即ち所謂皇民化運動  
は之が基本として刻下の緊  
要の問題であり、之に對す  
る在臺内地人の指導的任務  
に就て一段の覺醒を要する  
ものがある。

### 重要諸施設の 防護、警戒

重要諸施設と云ふのは軍  
事關係諸施設を初め、重要  
物資生産工場、倉庫、鐵道  
停車場、汽船、港灣、放送  
局、無電局、電信、電話、  
郵便局、發電所、水源地、  
重要官廳、大建築物、橋  
梁、貯水池等で、之等の防  
護に就ては防諜關係の諸法  
規にも規定され、一般の立  
入を禁止したもの、寫眞の

撮影、模寫を禁じたもの等  
がある他、夫々警戒もされ  
てゐる。然し、之等の諸施  
設は國民全體のものであつ  
て、國民である限り、凡て  
自分のものとして秘匿、防  
護、警戒に努めなくてはな  
らないものである。自分の  
大切な物、貴重な財産は嚴  
重に仕末してゐる人が、そ  
れ以上大切な之等の施設の  
防護、警戒を考へないこと  
は甚だ間違つた考へであ  
る。殊に之等の施設の附近  
の住民は一層重大な關心を  
拂ひ、少しでも異狀を發見  
し不審を感じたなら、直ち  
に警察、憲兵、或は其の施  
設の管理者に通知する位の  
事は當然行はねばならぬ

### 要 語 國民防諜の

い。滅私奉公と云ひ、公益  
優先と云ふことは、先づ斯  
様な事から始めるべき心構  
への謂である。  
今迄述べて來た處で明か  
な如く、武力戦闘が戦場の  
戦であるに對し、思想戦、  
經濟戦、外交戦の戦はれる  
地域は常に銃後の國內を初  
め世界的規模に於て戦はれ  
てゐる。又前者は戦争状態  
の繼續期間と、平和期との  
區分が比較的明瞭である  
が、後者には其の區分は必  
ずしも明瞭でない。今日の  
戦争の効果から見れば、思  
想戦、經濟戦、外交戦、換

言すれば、諜報戦、宣傳  
戦、謀略戦等の一部門とし  
て武力戦が存在するに過ぎ  
ないとも言へるのである。  
其の戦闘員は全國民凡て  
であつて、官吏も、軍人  
も、商人も、農民も、労働  
者も、其他凡てが夫々の職  
域、職場に於て戦はねばな  
らぬのである。  
之は武力戦のみでは決し  
てない。どうすれば勝つ  
か、勝ち得るか。  
全國民が良き戦士とな  
り、良き裝備を持ち良き訓  
練を受け、而して確乎たる  
信念と不屈の精神力を發揮  
せねばならぬこと、武力戦



と何等違ふ所はない。  
 國家總力戦々士として、  
 政治家は政治を、外交家は  
 外交を、産業家は生産を、  
 教師は教育を、工手は工場  
 で、農民は田畑で、百般の  
 業態々々戦時の最高能率を  
 擧げ、且つ一方防諜戦士と  
 して、夫々の職域、職場で  
 闘はねばならぬのである。  
 スパイの事なら警察、憲兵  
 がやるだらう、俺は官廳で  
 軍需工場で、耕作地で銃後  
 の一役を立派に果してゐ  
 る、と云ふならばそれは防  
 諜に對する恐るべき認識不

### 臺灣の總人口

意義深い皇紀二千六百年を期し、昨昭和十五年  
 十月一日、全國一齊に國勢調査が行はれ、臺灣で  
 も同時に實施を見たが、先頃その結果が發表され  
 た。その結果によると、前回の調査に比し、總人  
 口では六十五萬九千餘人の増加でこの五ヶ年間に  
 一ヶ年平均十三萬九千餘人の増加である。實に明治三十  
 八年の第一回臨時戸口調査當時の總人口三百三萬九千餘に較  
 べると、九割の増加で、文字どほり躍進臺灣の姿を如實に示  
 してゐる。

足が左様に言はしめるので  
 ある。百の防諜宣傳、千の  
 防諜ピラを見るより、今は  
 職場で、或は家庭で一つの  
 實行をすることを貴しとす  
 る。對岸の火災を見て消火  
 を論じてゐる時ではない。  
 火は既に國內到る處に燃え  
 擴がつてゐるのである。  
 國民防諜の要諦はかくし  
 て、

敵に何事も知らしめないこ  
 と。  
 敵の如何なる宣傳にも迷は  
 されないこと。決して敵に  
 謀られないこと。  
 であり、かくして防諜戦も  
 敵には勝たねばならない。  
 のである。

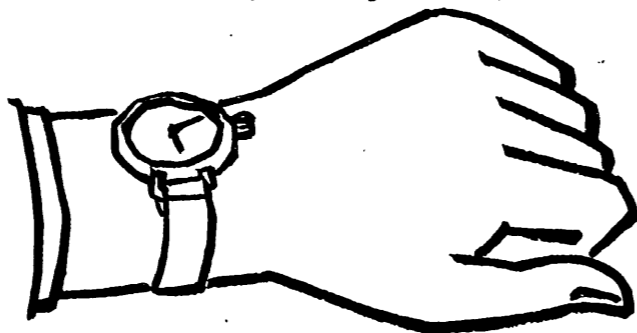
### 部報掲載資料 懸募集

臺灣 時局關係又は地方色ある  
 もの(大きさは成るべく  
 キヤビネ判とす)  
 感話 各地に於ける感激實話又  
 はニュース(一篇の長さ  
 は四百字詰原稿紙二枚以  
 内とす)

お断り 記事輻輳のため連載中  
 の「皇民講座」及び「西郷從道」  
 は本誌に限り休載致します。

昭和十六年五月十五日印刷發行  
 編輯長 臺灣總督府情報部  
 發行所 臺北市榮町三丁目十五番地  
 印刷所 加藤 豐登 吉  
 臺北市榮町三丁目三番地  
 印刷所 小塚本店印刷工場  
 臺灣總督府内  
 臺北市  
 臺灣時報發行所  
 電話 臺灣四二七〇番

## 時は金なり 時刻勵行



### 鎌野時計舗

臺灣總督府諸官衙 御用 達  
 臺灣軍司令部諸部隊  
 精工社電氣時計 臺灣總代理店  
 マツタ電氣時計  
 臺灣總督府計量器特許販賣  
 私書函臺北局第一三三號  
 臺北市榮町三丁目  
 電話 二二八二番  
 振替臺灣八二一  
 支店 臺北市千歲町二丁目

# 野村證券株式會社

## 營業要目

- 一、日本銀行引受國債賣捌取扱
- 二、公社債の引受募集並ニ賣買
- 三、株式の引受募集並ニ賣買
- 四、公社債元利金支拂株式配當金取扱代理事務
- 五、金融業務

本店 大阪市東區安土町二丁目

臺北支店 臺北市表町二丁目

電話四〇〇一四一五九四五二〇七二五七  
振替貯金口座番號九一〇一零  
支店 東京・名古屋・京都・神戸・岡山  
支店 廣島・高松・門司・福岡・金澤

滿州野村證券株式會社

本店 奉天・支店 新京・大連